



成長編

西暦1832年～1861年
圭介0歳～29歳

日本の動き

- 1832年 「富嶽三十六景」の完成
- 1837年 大塩平八郎の乱
- 1841年 天保の改革
- 1853年 ペリー来航
- 1854年 日米和親条約
- 1856年 ハリス来日
- 1858年 安政の大獄
- 1860年 桜田門外の変

圭介の動き

- 1832年 圭介誕生
- 1835年 「天下泰平」と書く
- 1845年 閑谷学校に入学する
- 1852年 適塾に入塾する
- 1854年 江戸にて、大木塾の塾頭になる
- 1856年 カメラを作成する
- 1857年 尼崎藩に仕官する
- 1860年 大鳥活字を作る

偉人の言葉・大鳥圭介評

篤姫: 圭介が指導したカメラで写真を撮ってもらったわ!



圭介は篤姫の父である島津斉彬に洋学の才能が認められ、薩摩藩の本の翻訳や解説を行っていました。

ジョン万次郎: 何人にも英語を教えたが、圭介は大変優秀じゃった。



アメリカより帰国した万次郎は幕臣に英語を教えており、圭介もそこで英語を教わります。また万次郎がアメリカで買ったカメラで圭介の写真を撮りました。

大きな世界へ



天保3年大鳥圭介、幼名慶太郎は、兵庫県の赤穂郡細念村(現在の上郡町岩木地区)に生まれました。当時は、日当たりが悪くネギも育たない閉ざされた小さな村でした。このころ、西日本一帯に天保の大飢饉がおきました。



3才の頃から神童と言われ、その一方で、お祭り好きなガキ大将でした。しかし、お祭りの前夜に弟が生まれたために、村の風習で、お祭りに行けなくなり、「なんでお祭りに行けないんだ」と泣き崩れました。

閑谷学校



慶太郎が10才になった時、祖父の純平が慶太郎を姫路へ連れ出しました。「大きな世界の中で色々な事を学びたい」と、思った圭介は、祖父が学んだ岡山の閑谷学校で様々なことを学びました。



閑谷学校の隣にある椿谷では、夜中になると学生たちがよく肝試しをしていました。この肝試しの始まりは、勉強ができガキ大将だった慶太郎と、武士の子供たちとの言い争いから始まったという説があります。

圭介が3才のとき、村の人々に神童と言われたのはなぜでしょう?

3歳の氏神参拜のとき、「天下泰平」と漢字で書きみんなを驚かせたからです。その後、閑谷学校で5年間漢学や儒学を学び、上郡に帰郷。この頃、名前を慶太郎から圭介と改め、赤穂の町医者・蘭医の中島意庵の薬箱持ちをしながら医学を学びました。